



## 「龍踊や社頭の秋日捲込んで」

下村ひろし

下村ひろしは明治三十七年、長崎市生まれ。本名は宏。医学博士。

昭和八年「馬酔木」に入門し、水原秋桜子に師事。

二十二年、「棕櫚」主宰発刊。三十七年、俳人協会に入会。長崎俳人会会長、長崎県文芸協会理事などを歴任し、本県の文化活動に貢献した。

長崎県社会文化功労賞、馬酔木賞、長崎新聞文化賞、俳人協会賞をはじめ多数の受賞歴がある。

句集に『石階聖母』『西陲集』などがあるが、故郷長崎をこよなく愛し、来崎した師の秋桜子や幼なじみの文芸評論家山本健吉などを案内して、原爆遺構や島原半島を巡ったりした。

下村の句碑は、諏訪神社参道に下村の喜寿を記念して「棕櫚」同人により建立された。また、秋桜子と並ぶ師弟の句碑が西坂公園に建立されている。